

大会参加上の注意および連絡事項

- ・本大会は平成 30 年度日本協会制定のミニ・ラグビールールに基づき行います。
- ・選手入れ替えについては必ずレフリーに申し入れ、レフリーの指示に従いフィールド内に入る事。
- ・出血がともなわなくても、ドクターの治療を要する場合は、一時交代を認めます。
- ・選手の服装については日本ラグビーフットボール協会からの通達どおり正しい服装でゲームに参加して下さい。
- ・ドレスチェックは行いませんので、各チーム、スタイル、爪等をチェックしてください。また、**前のゲームのハーフタイム時にトスを行います**ので、連絡があり次第本部へ来てください。(第 1 試合は開始 10 分前)
- ・選手以外はフィールド内に立ち入らないで下さい。
- ・試合中は指導員・リザーブ選手共、タッチラインから離れて待機して下さい。また、試合終了後は速やかに移動して下さい。
- ・車両駐車は、駐車場をお願いします。路上駐車はしないで下さい。天然芝グラウンド横の広場（土グラウンド）を駐車場に確保しております。
- ・喫煙は所定の場所のみをお願いします。
- ・**ゴミは各チーム責任をもって持ち帰り下さい。特に生ごみの放置は野生動物の餌となりますので、厳禁です。**
- ・ラグビー場以外は立ち入らないで下さい。
- ・バスで来場されるチームは事前に台数、時間等連絡下さい。

競技規則及び留意事項

《大阪府ミニ・レフリー実技試験及び5年生交流試合》

- ・本大会は平成30年度日本協会制定のミニ・ラグビー競技規則に基づき行います。

1. 本大会特別規則

- 試合時間は12分ハーフで行ない、ハーフタイムは3分とします。
- 移動時間も4分のため、試合終了後の相手チームベンチへの挨拶は無しとし、速やかに退場してください。
- 試合時間の関係上、ゴールキックは行ないません。
- その他、30年度ミニ・ラグビー競技規則記載の各、注意事項に従い競技を行ないます。
- 細部については当日の代表者打ち合わせで調整します。
- 当日本部前にて**9時30分**より代表者打ち合わせを行いますので、全スクール参加してください。また、当日レフリーをされる方全員についても、スタイルの上集合してください。

2. 競技上の注意

- レフリー・タッチジャッジをされる方については、「**レフリーの服装**」をしてください。
- レフリー担当は、基本的には変わりませんが、実技試験及び講習会の関係で、抜ける場合があります。当日調整させていただきます。
- **各チームキャプテンは、一つ前の試合のハーフタイム時に本部に集合し、担当レフリーを交えて予めトスを済ませておいてください。**
- 選手交代はハーフタイム時も含めて、必ずレフリーの了解を得、交代すること。
- 選手はもちろんのこと、指導員のスパイクもゴムの固定式であること。
- タッチジャッジ役の指導員はレフリーを助け、タッチジャッジに専念してください。
- ウォーミングアップについては、次のチームのみアップグラウンドにて行ってください。
- グラウンド内での給水は**水のみ**とし、スポーツドリンク等は禁止します。

3. 安全対策に関して

- 各スクールとも保険加入された上でご参加ください。大会中に発生した負傷については、応急処置の外は責めを負いません。
- インフルエンザと診断もしくは認められる選手は、各スクールの責任において出場の辞退を行ってください。

4. 観戦上の厳重注意

- グラウンドへの入場は、関係者以外一切禁止といたします。(大会運営本部役員・レフリー・タッチジャッジ・ドクター・選手・監督1名・コーチ1名・セーフティアシスタント1名・ウォーター1名とします。)

5. 本大会留意事項

キック

- ・ ボールを手で保持した状況から以外のキック（地上にあるボールを蹴るようなキック）はいかなる地域でも禁止であり、これに反した場合はキックが行われた地点でペナルティとなる。プレー中、ダイレクトタッチは10メートルライン内からのみ許される。

ゴールキック

- ・ トライ後のゴールキックは行わない。

ファールプレイ及びペナルティ

- ・ 防御の際に、相手をしっかりバインドせず振り回すプレー、ボールを持っているプレーヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラインの外に突き出したりするプレー、フェンドオフ（腕を横に振り、相手を払い除けるようなプレー）はいずれも危険な行為であり、ファールプレイである。すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側はタップキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則のあった地点からゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がるか、反則があった地点がゴールラインにから5メートルない場合は、ゴールラインまで下がらなくてはならない。フリーキックも同様である。なおペナルティキックあるいはフリーキックにおいてタップキックするプレーヤーはボールを明確に蹴らなくてはならない。

タックル

- ・ タックルしたプレーヤーはすぐに相手を離し転退する。
- ・ タックルされたプレーヤーはすぐにパスするか、ボールを手放す。
- ・ アライビングプレーヤーは、倒れているプレーヤーの後方からボールに向かって立ってプレーする。ボールの位置から離れたスweepや頭が下がる突っ込み、ブリッジング、また、ボールの前で立ちはだかるオブストラクションはすべてPKである。
- ・ タックルされたプレーヤー、地面に倒れたプレーヤーが、身体と地面の間にボールを確保し、脚の間からボールを後方に押し出すプレー（スクイズボール）は、どのような状況であろうと危険なプレーとしてPKをとる。
- ・ 脇から上のタックルはすべてハイタックルである。襟を持つことも危険なタックルであり、また、相手をつかまず突き倒すプレーや頭突き、相手を掴んで振り回す行為はタックルではなく、危険なプレーである。このようなプレーには厳しく対処し、退場やシン・ビンもありうる。

モール

- ・ 横あるいは後ろに動いている場合も停滞している状態である。5秒間停止した時、一旦停止したあと2度目の押しが止まった時、レフリーの指示に従い、すみやかにボールを出す。

ラック

- ・ ラックが成立すればボールを手で扱うことはできない。また、ハーフそれにかわるプレーヤーがボールに触れば、ラックは終了である。

その他

- ・ ジャージがはだけたり、ストッキングがずり落ちた状態でプレーしない。
- ・ ドレスチェックは行なわないので、各チームでスタイル、爪等をチェックすること。
- ・ ゲーム中は、レフリーから様々な指示の声がかかるのでその声に従う。